

科学技術の潮流

JUST研究開発戦略センター

210

とで、研究環境を改善得にとどまらず、革新唱された。同時に、政ら、高等教育省のカラーターの拡張、技術職業らに、現行政策の改善ド大臣は、今年1月の教育訓練(TVET)案を検討するための国演説で、大学院課程へシステムの全面的な見家検討委員会を設置された。現地の大学関直しなどを掲げた。さし、高等教育計画の改善を図る見通し

東南アジア諸国連合(ASEAN)の中での「教育ハブ」にすも、マレーシアは比較るといふ目標を設定の早い1980年代から、科学技術・イノベと送り出しを促進してーション分野の国家戦略を活発に策定・更新してきた。英QS「世界大学ランキング」での数年来の躍進に見られるように、マレーシアの大学は今、国際的な存在感を強めている。(図)

ASEANの科学技術動向

8

また、国立マラヤ大学の発揮を柱とする第11次の国家5カ年計画の諸項目を評価し、その15年の高等教育計画も昨今、見直しが進もうとしている。国内での人材育成の機能強化が推進途上との認識が

マレーシア大学改革の今

政策の転換点

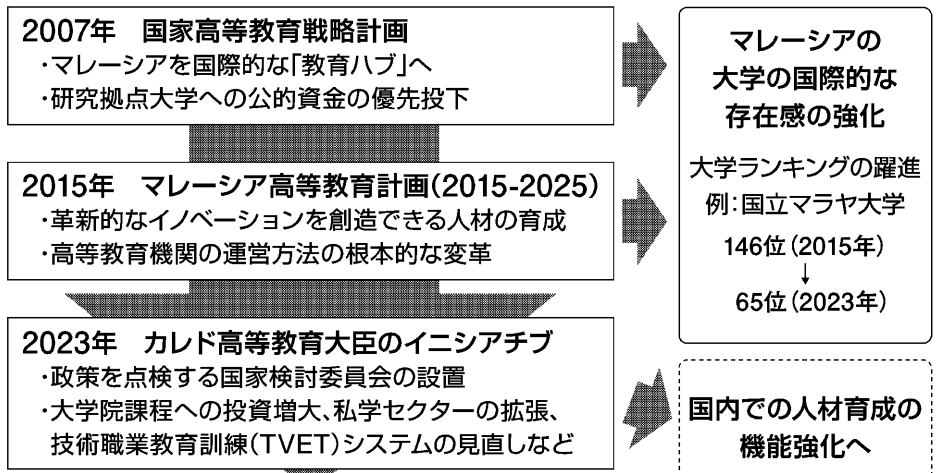
2007年に高等教育省が定めた「国家高等教育戦略計画」から、マレーシアの大学改革は本格化した。人材獲得と国際社会でのプレゼンス強化のため



科学技術振興機構(JST)研究開発戦略センターフェロー(科学技術外交グループ) 小林 尚矢

慶応義塾大学大学院社会学研究科教育学専攻修士課程修了(教育学)。専門は比較教育学、アメリカ大学・高等教育史。23年より現職。科学技術外交に関する業務を担当。

マレーシアにおける大学改革の潮流



出典: マラヤ大学の順位については各年のQS World University Rankingsを参照

大学改革の帰結をめぐっては、長期的な視野での検証が必要だろう。改革の続く日本への示唆を得るためにも、マレーシアの改革動向を注視していきたい。「ASEAN地域の科学技術動向」の連載は今回がひと区切りとなるが、友好協力50周年を機とした日ASEAN連携の深化が期待される中、今後の展開をつかむ一助となっていれば幸いです。(金曜日に掲載)